



平成 28 年 6 月 29 日放送

「お薬手帳」の活用方法

J A とりで総合医療センター
薬剤部 薬剤主任 福田光司

司会者：今日は、お薬手帳の活用方法ということで、お薬手帳の具体的な使い方など事例を交えて紹介していただきたいと思います。まず初めに、そもそも、お薬手帳とはどのようなものなのか？教えてください。

福田：お薬手帳は、自分が使っている薬の名前、服用する量や投与日数、使用方法などを記録できる手帳のことをいいます。また、副作用の経験やアレルギーがあるかないか、過去にかかった病気などについても記入できるように作られています。最近では、タブレットやスマートフォンの普及に伴いまして、電子お薬手帳といったサービスも地域によっては利用できるようになってきています。

司会者：では、実際にお薬手帳はどのように利用すればよいのでしょうか？

福田：そうですね。まずは、病院や歯科医院に行くときに、毎回忘れずにお持ちいただき、診察を受ける際に医師に見せてほしいと思います。その後、薬局へ行った際も、処方箋と一緒に提出してください。また、その際、医療機関の薬だけでなく、薬局で市販のお薬を購入した場合や服用しているサプリメントも記録してください。処方された薬と一緒にのむことで、効果が強くでたり、逆に弱くなるなどの影響を及ぼすことがありますので、場合に応じてアドバイスをうけることができます。このほか、普段の生活で気になった点や体調の変化、困ったことがあれば書き留めて置くともよいでしょう。それから、次回来院する際には、ご自宅にどの程度薬が残っているのかをお薬手帳に記載しておくこともお勧めします。医師が処方する際に投与日数の調整をしてもらうことができますので、お薬手帳を上手に活用していきましょう。

司会者：お薬手帳を利用するメリットについて教えてください。

福田：お薬手帳を使うことのメリットには、例えば、病院にかかった時に、お薬手帳を医師や薬剤師に見せることで、以前に副作用やアレルギーがでたことはないか・同じようなお薬が重複していないか・不都合な飲み合わせはないかなどの確認ができることです。また、お薬手帳があれば、旅行先で急に具合が悪くなった時にも、かかりつけでない病院や薬局で、薬の情報を正確に把握すること

ができますので、安心して医療を受けることができます。

司会者：東日本大震災の際も、お薬手帳が役に立ったというお話を伺ったことがあります。

福 田：そうですね。東日本大震災では被災地の多くの医療機関で、電子カルテの機能が麻痺したり、津波により医療機関や薬局そのものが流され、カルテや薬の処方歴が失われました。そのような環境の中、お薬手帳の活用により、スムーズに医薬品が提供され、多くの方が適切に医療を受けることができたと同っています。日頃からきちんと薬の履歴を残しておくことで、そこから病状の変化をうかがい知ることができますので、お薬手帳は、医療の情報がたくさん詰め込まれた、たいへん有用性の高いツールだと思います。我々自身もこの時、改めてお薬手帳を持つことの大切さを教えられたように思います。

司会者：では、お薬手帳はどこでもらえるのでしょうか？

福 田：お薬手帳は、病院で処方箋を受け取ったあとに薬を調合してもらう薬局、いわゆる調剤薬局で作ってもらうのが一般的だと思います。我々病院薬剤師も、入院していた患者さんが退院する際、お薬手帳を持っていない場合には、入院中に使用したお薬の情報や経過などを記載し提供しています。

司会者：いつも同じお薬をもらっているという方も多いと思いますが、お薬手帳は毎回記載してもらったほうが良いのでしょうか？

福 田：そうですね。確かに、毎回同じお薬をいただく場合、お薬手帳自体不要に感じることがあります。しかし、同じお薬であっても、「いつ」「どこで」「何日分」もらったかが記載してあれば、現在服用している薬かどうかを判断することができます。また、その薬をどのくらいの期間服用しているのかという事もお薬手帳を見ればすぐにわかりますし、どの程度薬が残っているのかを把握することができます。是非、薬局で毎回お薬手帳への記載をしてもらってください。

司会者：お薬手帳を複数持たれている方もいるようですが？

福 田：そうですね。複数の医療機関を受診されている患者さんの場合、医療機関毎に何冊もお薬手帳を持っているケースがあります。実は、お薬手帳は1冊にまとめてこそ、その機能が発揮されます。医療機関毎に使い分けてしまうと、同じ薬の重複や不都合のみ合わせなどを回避することができなくなってしまいます。是非、1冊にまとめてご利用いただきたいと思います。

司会者：実際に、お薬手帳を利用されている方はどの程度いるのでしょうか？

福田：はい。ある調査によりますと、70歳未満の患者さんでは、お薬手帳を医療機関に持ってきているケースというのは40%未満とも言われています。なかなか普段からお薬手帳を携帯するという習慣がないことを、このデータが裏付けているわけですが、最近では、冒頭に話しました通り、電子サービスも普及してきていますので、今まで以上にお薬手帳が身近な存在になってくれることを期待しています。また、2016年度の診療報酬改定により、4月からお薬手帳を薬局に持参すると、一定条件のもとではありますが、医療費が安くなるといった制度が開始されました。多くの方にお薬手帳のメリットを理解していただき、より安全で有効な薬物療法を行うために、活用して頂きたいと思います。

司会者：お薬手帳を利用する際の注意点などはありますか？

福田：2点ほどお伝えしたいと思います。1つめは、繰り返しになりますが、外出時にお薬手帳を携帯するということです。医師や薬剤師との連絡手段としての側面もありますが、急な病気・外出時の事故といった緊急時に情報を伝えるツールとして非常に役に立ちます。2つめは、自分以外の誰かが簡単に見つけられるような場所に保管しておくことです。いざというときに頼りになるのは、身近にいる家族です。ご家族に保管場所を伝えておくことで、緊急時の情報提供が可能となります。

司会者：本日は、お薬手帳の活用方法ということで、お薬手帳とはどういうものか？利用方法や注意点などを解説して頂きました。ありがとうございました。

福田：一人でも多くの患者さんがお薬手帳に興味を持ち、上手に活用していただけたら幸いです。ありがとうございました。